

## 8月 定例山行 (宮島花火を見下ろす山行)

8月14日 (土) 船倉山

廿日市市

参加者12名 CL 若木 SL 西本

宮木(一) 宮木(澄) 得本 坂井 島田 花房 三浦 滉  
(上杉、杉山・・・佐伯労山)

《 雄大な花火・・・爆裂音が6秒後に ドーン 》

17時、強い日差しが西に傾く頃、串戸駅に集合。3台のタクシーに分乗して王斜城へ。登山口で準備体操をしていると若い警備員が来て「先ごろ夕方に車で来て山に登り自殺した人がいる。それに7月の大雪で登山道も崩れています。警察当局から“夜間の登山は危険だから中止させてくれ”と言われている。登っては困る」・・・と

「我々は花火を見に来ただけだ。自殺などしない。危険なところがあれば引き返す」しばらく押し問答の末「念のために名前を教えてくれ」と言ってやっと帰っていました。ヤレヤレ、こんな大勢で自殺などするものか。



船倉山の山頂で花火の開演を待つ

急な斜面を大汗をかいながら1時間、気持の良い風の吹く山頂(545.9m)に着いた。(特に崩れて危険なところはなかったが、帰りは真っ暗なので注意が必要だろう。)見渡せば宮島の大鳥居は目の下。海上には大小の船が鳥居を半円形に囲んで開演を待っている。広島市の夜景もこんなにきれいだったのか。ビールを飲んで弁当も食べ終わった頃、あたりは真っ暗。やがて、ドーン、パチパチ 大輪の花火、水中花火、仕掛け花火 迫力満点。

「華やかに やがて悲しき 花火かな」  
(ウーン なにやら盗作の臭い)  
きれいな花火も終わってみるとなんと

なくもの寂しい。そんな気持を抱いて黙々と急な斜面をヘッドランプを頼りに下る。タクシーを呼べど「街道筋は車が一杯でとても回送できません」とすげない返事。やっと佐伯タクシーが津田から来ることになった。JRの車内も超満員。「花火はきれいで良かったね。来年も行きたいね」と皆さんのが感想。ご苦労様でした。

(記 若木一之)